



青森農研フラッシュ

研究成果

(地独)青森県産業技術センター・農林部門

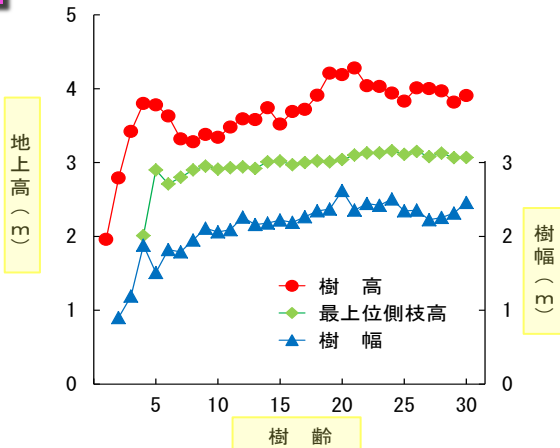
りんご「ふじ」のわい化密植栽培における木の生育と収量の経年変化

りんご研究所

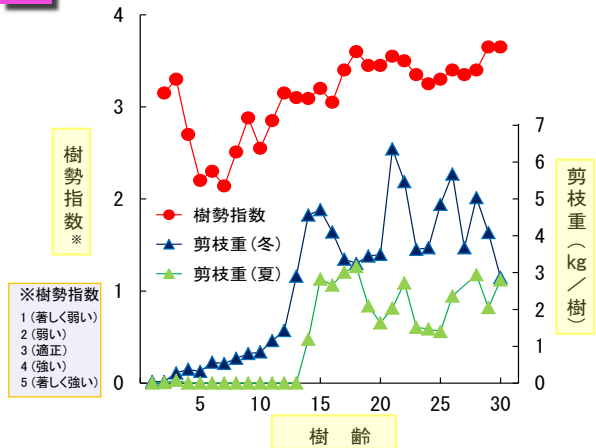
青森県にりんごのわい化栽培が導入されて40年以上経過しましたが、わい化密植栽培における木の生育や収量の経年変化を長期間にわたり具体的に検討された事例がほとんどありませんでした。

そこで、りんご研究所(黒石)において、「ふじ」/M.9Aを列間4m×樹間2mで栽植し、最上位側枝高3m、樹幅2mの細がた紡錘形を目標樹形とし、30年間継続調査しました。

樹高、最上位結実高および樹幅の推移



樹勢指数および剪枝重の推移



栽培開始

8年生

目標樹形に達する

17年生以降

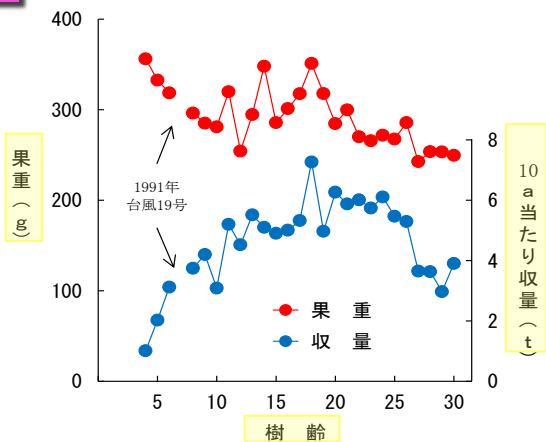
樹勢が強めとなる

21年生以降

栽植距離内に樹形を維持するため、強剪定

剪去される枝の量が多くなる

果重および10a当たり収量の推移



30年生の収穫前の着果状況



栽培開始

11年生

10a当たり収量を4t以上確保出来るのは11~26年生まで

26年生

27年生以降

受光体制の悪化に伴う花芽不足による着果数の減少や小玉化(果重減)

10a当たり収量は4tを下回る

10a当たり収量を4t以上確保でき、剪定が比較的容易で目標樹形を維持できるのは、樹齢10~20年生頃であることが明らかになりました。

お問い合わせ

りんご研究所 栽培部 (Tel0172-52-2331)